## メモ: Euler 関数の cototient について

2020.11.01 山下 倫範, 宮田大輔, 藤田菜摘 2021.02.01 update 2023.12.25 update

 $\varphi$  を Euler('s torsion) 関数とし、その cototient 関数を  $\vartheta$  で表記する. すなわち、

$$\vartheta(n) = n - \varphi(n) < n$$

要するに,  $(n,k) \neq 1$  なる k の個数である.

ここで、 $\cos \varphi$ iter,  $\vartheta$  の iteration を考えてみると、この導来対数関数  $L_{\vartheta}$  については、我々の定理から、

$$L_{\vartheta}(xy) = L_{\vartheta}(x) + L_{\vartheta}(y)$$

が成立している.

ここでは、この性質を一旦離れて、 $\vartheta$  自身の性質を色々と探ってゆこう。次のことが簡単にわかる。

命題 **0.1.**  $\vartheta(1) = 0$  p が素数であれば  $\vartheta(p^e) = p^{e-1}$ 

$$\vartheta(1) = 0 \qquad p: \text{prime }, \, \vartheta^{e+1}(p^e) = 0$$
 
$$x: \text{odd }, \, \vartheta(2x) - \vartheta(x) = x$$
 
$$\vartheta(2^e \cdot 3^k) = 2^e \cdot 3^k - 2^{e-1} \cdot 2 \cdot 3^{k-1} = 2^{e+1} \cdot 3^{k-1} \qquad \vartheta^{e+2} = 0$$

 $\vartheta(x)$  については、 $\varphi(x)$  と同じく

$$\vartheta(x) = \frac{x}{\operatorname{rad}(x)} \vartheta(\operatorname{rad}(x)) \qquad \varphi(x) = \frac{x}{\operatorname{rad}(x)} \varphi(\operatorname{rad}(x))$$

が成立しているので、x が根基数の場合を考察すればよい. 以下、p, q を奇素数とする.

## 命題 0.2.

$$\vartheta(2p) = 2p - (p-1) = p+1 =$$
Relue 関数

次に, 
$$p = 2^e p_0 + 1$$
,  $q = 2^k q_0 + 1$   $(p_0, q_0 : 奇数)$  としておく

## 命題 0.3.

$$\vartheta(2pq) = 2pq - (p-1)(q-1) = (p+1)(q+1) - 2 = 2p_0 \cdot 2q_0 - 2 = 2(2^{e+k-1}p_0q_0 - 1)$$

命題 0.4.

$$\vartheta(pq) = pq - (p-1)(q-1) = p + q - 1 = 5$$